

(一) 從テ帝國ノ領土決定ニ際シ問題トナルハ第一次世界大戰以前
 帝國ノ屬シタル諸小島ノ歸屬ニ在ル處
 (二) 琉球、小笠原、火山列島
 米國ニ於テハ極東ニ於ケル戰略的基地ヲ確保スヘク又米國兵
 ノ血ヲ以テ購ヒタル島嶼ハ之ヲ米國ヲ保有スヘキナリトノ強
 キ主張アルニ雖モ米國ハ本土駐兵權ト共ニ沖繩本島及小笠原
 相堂長期ニ亙リ空軍基地ヲ設定セントスルモノト認メラレ
 硫黃島ノ領有ヲ要求スルニトテ得ヘシ、尚琉球列島ノ歸屬
 ニ付住民投票ヲ行フコトアリ得ヘシ

外務省

(一) 帝國ヨリ列奪セラルベキ領土ノ處分ハ左ノ如クナリニ非ラズ
 ヤト豫想セラル
 (1) 朝鮮
 朝鮮ヲ獨立セシムベキコトニ付テハ「カイロ」宣言ヲ以テ
 明ニセラレタルガ各年十二月莫斯科三國外相會談ニ於テ其
 獨立ニ先立チ米英蘇支四國ニ依リ五年以内ノ信託統治ヲ施
 行セラルベキ旨決定セラレタル模様ナリ
 濟州島ハ朝鮮ト共ニ處置セラルベシ
 (2) 臺灣、澎湖島、滿洲國
 支那ニ返還セラルベシ

(二) 委任統治諸島
 差當リ聯合國側ノ信託統治ニ附セラルルモノト認マラルル

外務省

モ米國ハ「マリアナ」群島ヲ其信託統治下ニ置キ乃至「マ
ニアン」島ノ如キ戰略的重要島嶼ノ使用權ヲ確保スベシ
(外) 占領地域
概シテ舊歸屬關係ニ復歸スベシ

外務省

三 平和條約中領土條項ニ關スル我方ノ希望條件

(一) 太平洋憲章並ニ「カイロ」宣言ノ趣旨ニ基キ住民ノ意思ト一
致セサル領土の變更ヲナササルコト

(イ) 大西洋憲章中關係條項

第一條 兩國(米英)ハ領土の或ハ其他ノ増大ヲ求メス

第二條 兩國ハ關係國民ノ自由ニ表明セラレタル希望ト一
致セサル領土の變更ヲ見ルヲ欲セス

(ロ) 「カイロ」宣言中關係條項

第一條 三同盟國(米・英・支)ハ自國ノ爲ニ何等ノ利得
ヲ欲セス又何等領土擴張ノ意圖ヲ有セス

(二) 國際條約ニ依リ日本カ合法的ニ取得セル地域ナルモ歴史的乃
至地域的ニ見テ其歸屬ニ關シ疑義生シタル場合ニ於テハ人民
投票ニ依リ之ヲ決スルコト但シ斯カル場合投票ハ國際聯合特
別委員會ノ嚴正ナル監視ノ下ニ行ハルルコトヲ要ス

外務省

解除
第2回公開

秘

(平和條約問題研究資料)

昭和二十一年三月

課題

政治條約ニ關スル諸問題
又、軍事條約

(研究試案)

外務局

外務省

(三) 平和條約締結ニ依リ領土ノ變更最終的ニ決定セル場合ニ於テ
關係國政府ハ割讓地域存在日本人ニシテ本國歸還ノ希望ヲ表
明セル者ニ對シテハ歸國ヲ認ムルコト而シテ歸國ヲ希望スル
者ニ對シテハ其不動産ヲ相當ノ價格ヲ以テ賣却シ且自由ニ動
産ヲ搬出スルノ權利ヲ認ムルト共ニ歸國方法ニ關シ出來得ル
限り便宜ヲ供與スルコト

外務省

軍事條項

一 軍備ノ禁止

「ボソダム」宣言中ニ於テ日本軍隊ノ完全ナル武裝解除並ニ日本國ノ戰爭遂行能力ノ完全ナル破砕カ認ハレ居リ更ニ日本降伏後ニ於ケル米國ノ初期ノ對日方針中ニ於テ米國ノ究極ノ目的ハ日本カ再ヒ米國ノ脅威トナリ又ハ世界ノ平和ト安全ノ脅威トナルコト無キ様保證スルニアリ右目的ノ爲日本ノ武裝解除及非軍國主義化ヲ行フトアリ武裝解除ノ説明中ニハ日本ハ陸海空軍、秘密警察組織又ハ何等ノ民間航空ヲ保有スルコトナシト述ヘ居ルニ見ルモ日本カ陸海空軍並ニ直チニ空軍ニ轉化シ得ヘキ民間航空ヲモ保有スルコトヲ禁止セラルヘキハ明カナリ

二 經濟上ノ非軍國化

右軍備ノ禁止ト並行シ將來ノ再軍備防止ノ爲ニ徹底的ナル經濟上ノ束縛ヲ受クヘキハ之亦想像スルニ難カラス右ハ降伏後ニ於

外務省

ケル米國ノ初期ノ對日方針中ニ經濟上ノ非軍國化トシテ軍需生産ノ停止及將來ニ於ケル禁止、軍艦及一切ノ航空機ヲ含ム戰爭手段ノ生産施設ノ禁止、秘密軍備防止ノ爲特定經濟部門ニ於ケル監察管理制度ノ設置、重工業ノ平和的需要ノ限度ヘノ制限、商船ノ制限其ノ他ノ項目ヲ掲ケ居リ既ニ占領軍ニ於テ之ヲ實施中ナルカ右ハ何レモ平和條約中ニ於テ再確認セラレハシ

外務省

三 非軍事化ノ監督

前大戰後ノ「ヴェルサイユ」條約ニ於テ獨ハ陸軍ノ常備兵力十萬ノ保有ヲ國內ノ治安維持及國境警備ノ爲ニ認メラレタルカ之カ後ニ再軍備ノ中核トナリタルコトアリ又同條約ニ於テ航空機ノ保有禁止、武器彈藥ノ製造、輸入等ノ制限ニ付規定アリタルニモ不拘結局聯合國ハ獨ノ老ナル再軍備ヲ妨ケ得サリシニ鑑ミ前記一、二、ノ實施ノ爲ニハ長期ニ亘ル監察制度設置セラレヘシ

四 日本ヘノ駐兵

「ポツダム」宣言ニ於テハ聯合國占領軍ハ同宣言中ノ諸目的ヲ達成シ且日本ニ民主主義的政府ヲ樹立セラレハ直チニ撤收スヘキ旨述ヘ居ルモ前記三、ノ監察ノ見地ヨリスルモ占領力相當長期ニ亘ルコトハ豫想セラレル所ニシテ講和條約カ比較的近キ將來ニ於テ締結セラレル時ハ同條約中ニ日本ヘノ駐兵ノ問題取

外務省

上ケラルル可能性極メテ多カルヘシ
右駐兵ハ日本國內ノ治安維持、外敵ノ日本ヘノ侵略防止等極東ニ於ケル安全保障ノ問題トモ關聯シテ考慮セラレヘシ

外務省



除 解
第 7 回公開

(平和條約問題研究資料)

昭和二一年一一一

課 題

政治條項

5. 聯合國憲章へノ參加問題

(研究議案)

政 務 局

外 務 省

國際聯合參加ノ問題

(1) 「ポツダム」宣言ニ依レハ日本ノ國際社會ヘノ參加ハ日本カ「ポツダム」宣言ニ於ケル諸條件ヲ履行シ而シテ平和的傾向ノ責任政府カ樹立セラルルコトヲ條件トシ居レリ

平和條約ノ締結ヲ機トシテ日本ノ國際社會ヘノ正式ノ參加カ許容サルルコトトナルヘキ處右ハ一應國際聯合ノ參加トハ別個ノ問題ナルコト勿論ナリ

(2) 國際聯合憲章ハ第二章第四條ニ加盟規定ヲ有シ居ル處右ニ依レハ本憲章ニ含まルル諸責務ヲ容認シ機構ノ判斷ニ於テ之等ノ諸責務ヲ遂行スル能力ト用意アリト認メラルル凡テハ平和愛好國ハ安全理事會ノ推薦ニ基キ總會ノ三分ノ二ノ決定ヲ以テ加盟カ許サレルコトトナリ居レリ。即チ日本ハ平和條約ニ依リ一應國際社會ニ參加ヲ許サルルモ日本カ憲章ノ責務ヲ果ス能力ヲ有シ居ルヤ否ヤカノ判定ハ平和條約トハ別箇ニ國際聯合ニ依リテ行

外 務 省

除 第 7 回 公開 解



ハルル次第ナリ
 (3) 平和條約ニ日本ヲ國際聯合ニ加盟セシムルコトノ條項カ假リニ
 規定サルルトシテ右ハ締結國間ノ取極ニシテ其ノ希望ノ表示ニ過
 キス・我方トシテハ斯ル規定ヲ持ツコトカ安全保障理事會ニ依
 ル推薦ヲ得ル爲ニモ有利ナルコトハ間違ヒナキトコロナルカ聯
 合側方果シテカカル規定ヲ含ムコトヲ承認スルヤ否ヤハ未タ判
 定シ得ザル所ニシテ「バルカン」諸國トノ平和條約ニ於テ本問
 題カ如何ニ取扱ハルルカハ今後此意味ニ於テ注目サルルヲ要ス

外務省

(平和條約問題研究資料) 昭和一一・一・三一

課題

政治條項ニ關スル諸問題

6 國籍問題ト平和條約

(研究試案)

政務局

外務省